政務活動報告書

令和８年９月１８日

伊勢市議会議長　北村 勝　様

会派名　みらいをつくる会

幹事長　森下知世

研修を実施しましたので下記のとおり報告します。

記

１　日	時	令和8年9月5日（土）10時～16時
		令和8年9月6日（日）10時～16時
２　場	所	京都JAビル
		京都市南区東九条西山王町1
３　内	容	決算質疑特別研修

決算質疑特別研修参加内容

研修の目的

決算審査に必要な資料の読み方と質疑の組み立て方を学び、事業の成果や課題を翌年度の予算や施策の改善につなげるため、2日間の研修に参加しました。あわせて、生成AIを使った資料分析や情報発信の方法を学び、議員活動での調査を効率よく進め、質疑をより充実させることを目的としました。

研修の概要

講師は、元枚方市議会議長の木村亮太氏です。1日目は、決算審査に臨む姿勢や行政との関わり方、行政計画や監査資料を使った質疑について学びました。2日目は、生成AIの基本的な使い方と、財政状況資料集や事務事業評価を使った分析の実践について講義を受けました。

1日目の研修内容

午前　決算審査の役割と質疑の基本

決算審査は、支出の結果を確認するだけでなく、事業にどのような成果があり、どこに改善の余地があるかを考える機会です。行政内部では夏頃から翌年度予算の検討が始まるため、決算審査で示した課題や提案を予算編成につなげ、その後の予算審査で反映状況を確認するという、一連の流れを意識することが大切だと学びました。

質疑では、議員と職員の立場や権限の違いを理解し、何が課題なのか、どのような状態を目指すのかを具体的に共有することが大切です。市民から寄せられた相談を出発点に、数値や制度、他自治体の状況なども確認し、個別の相談から施策全体の課題を考えることが、改善につながる質疑の基本になると学びました。

数値の見方として、目標と実績の差、複数年度の推移、事業費と利用者数の関係、全国や他自治体の動向との比較が紹介されました。利用者が減っていても事業費が変わらない場合は費用対効果を確認し、利用者が増えていても予算や人員が変わらない場合はサービスの質に影響がないかを確認するなど、数値の背景にも目を向けて評価する視点を学びました。

午後　行政計画と監査資料に基づく質疑

決算書に加え、人事行政の運営等の状況、決算審査意見書、総合計画、総合戦略などを活用する方法を学びました。決算審査意見書の総括や意見から重点課題を把握し、関連する計画や資料を確認することで、質疑の根拠を整理しやすくなります。また、他自治体の包括外部監査報告書も、補助金や債権管理などを確認する際の視点を学ぶ参考になります。

総合計画や総合戦略については、市が自ら定めた目標と実績を照らし合わせ、目標に届かなかった原因と改善策を確認することが大切です。KPI（重要業績評価指標）が達成されたかだけでなく、その達成が政策全体の目標や人口減少対策にどのようにつながったのかも確かめる必要があります。事業の実施件数と、住民生活や地域の状況の改善とを分けて考えることを学びました。

講義では伊勢市の人口動態も取り上げられ、自然増減と社会増減、年齢別・男女別の転出入、通勤先などを分けて分析する視点が示されました。地域の産業や雇用、住まい、進学などの事情を踏まえ、人口減少の要因に施策が対応しているかを確認することが大切だと感じました。

2日目の研修内容

午前　生成AIの基本操作と議員活動への活用

生成AIを使って、文章の要約、質問案の作成、先進事例の調査、説明資料や画像の作成などを行う方法を学びました。指示を出す際は、対象資料、目的、読み手、文字数、出力形式を具体的に伝えることで、必要な内容を得やすくなります。長い質疑の記録を市民向けの文章に整理したり、政策の論点を図やスライドにまとめたりするなど、調査と情報発信の両面での活用例が紹介されました。

資料を指定して分析するノートブック型AIについては、決算書や行政計画、議会資料などを読み込ませ、要約や比較、論点の整理を行う方法が説明されました。関連資料をテーマごとにまとめておくことで、過去の質疑や計画と照らし合わせながら検討しやすくなることを学びました。

生成AIは便利な一方で、もっともらしい誤情報を示したり、古い年度の資料や意図と異なる情報を参照したりする場合があります。そのため、回答はたたき台として受け止め、資料の出典、対象年度、数値、記載内容を原資料で確認することが大切です。取り上げる課題や最終的に伝える内容は議員自身が判断し、自分の言葉で整理する必要があると学びました。

午後　財政分析と事務事業評価の実践

財政状況資料集を使って、財政力指数、経常収支比率、実質公債費比率、将来負担比率などを確認し、年度ごとの変化や類似団体との比較から財政の特徴を把握する方法を学びました。歳出についても、人件費や扶助費などの性質別、教育費や商工費などの目的別に比較し、数値の変化と自治体が記載した分析内容をあわせて読むことが大切です。

基金については、残高だけで判断せず、基金の目的、今後の支出見通し、地方債との関係などを踏まえて、必要な備えと市民サービスへの支出のバランスを考える視点が示されました。生成AIを使った自治体間の比較表や複数年度の整理も紹介され、資料の形式を整え、比較したい項目を指定することで、分析の手助けになることを学びました。

事務事業評価では、事業目的、目標、実績、事業費、今後の方向性を照らし合わせて確認します。実績が伸びていない事業をそのまま継続する場合は、その理由や見直しの内容を確認することが大切です。目標に届かなかったという結果だけで判断せず、利用者や地域の声、制度の使いやすさ、支援内容などにも目を向け、拡充や改善、別の方法への切り替えを考えることを学びました。

研修で得た知見と今後の活用

決算審査を翌年度の改善につなげる

今回の研修を通じて、決算審査では、予算が執行されたことの確認に加え、その支出が市民生活や地域の課題解決にどうつながったのかを確かめることが大切だと改めて感じました。取り上げた課題については、改善の内容や時期を確認し、翌年度の予算やその後の実績まで継続して見ていきたいと思います。

伊勢市の計画と事業の成果を照合する

伊勢市の決算審査では、当初予算の説明、成果説明、総合計画・総合戦略の評価を照らし合わせ、事業を始める際に掲げた目的や目標が、実施後にどのように確かめられているかを確認していきたいと思います。特に、商工・観光施策、農林水産業の担い手確保、子育て支援などでは、実施件数や利用者数とともに、目指していた成果を示す指標やその変化にも目を向けていきます。

人口減少対策については、人口総数の増減だけでなく、若年層の転出入や雇用・住まいの状況などを分析し、施策との関係を確認していきたいと思います。観光など伊勢市の強みを生かす取組についても、来訪者数や事業実施数に加え、地域経済や雇用にどのような効果があったのかを考えながら、質疑に臨みたいと思います。

AIで調査を効率化し 原資料に基づく質疑を行う

生成AIは、複数の資料から関連箇所を探し、比較表や論点、質問案を整理する補助として活用していきます。その際は、根拠となる資料名、年度、ページや該当箇所を確認し、原資料に戻って内容を確かめます。調査の効率化によって生まれた時間を、担当課への聞き取りや市民の声の把握、改善案の検討に充て、質疑をより充実させていきたいと思います。

継続的な検証と市民への報告

政策の実現に向けては、一度の質問で終わらせず、計画の策定・改定、予算、決算の各段階で継続して関わることが大切です。必要に応じて委員会の所管事務調査なども活用し、議員間で課題や学んだことを共有していきたいと思います。また、決算審査で確認した成果や課題を市民に分かりやすく伝え、税金の使い方や改善の必要性について説明する際にも、今回の研修で得た知識を生かしていきます。